東京国立博物館ニュース

第703号
展示と催し物案内

2-3 ◎ 特別展 光明皇后1250年御遠忌記念
「東大寺大仏—天平の至宝—」

4 ◎ 特別展予告「仏教伝来の道 平山郁夫と文化財保護」

5-10 ◎ 平常展みどころ案内 2010年10月・11月
国宝 賢愚経断簡(大聖武)／日本美術の流れ／
特集陳列「中国書画精華」／重文 和漢朗詠集(益田本)ほか

11 ◎ 柳瀬荘アート・教育プロジェクト」／保存と修理情報

12-13 ◎ みどりのライオン 教育普及事業 講演会
ワークショップ／ボランティアによるガイド ほか

14 ◎ INFORMATION 15 ◎ TOPICS

16 ◎ 2010年10月・11月の展示・催し物

2010 10 11 月号

光明皇后一二五〇年御遠忌記念　特別展

東大寺大仏 天平の至宝

東大寺・大仏をめぐる至宝と超高精細映像によるバーチャル大仏。ほんものの作品と新しい手法をミックスさせた、まったく新しい展覧会の開幕です。今回は、展覧会の見どころを大きく3つのテーマに分けてご紹介します。

DATA

光明皇后1250年御遠忌記念　特別展
「東大寺大仏―天平の至宝―」
10月8日(金)～12月12日(日)　平成館

主催：東京国立博物館、華厳宗大本山東大寺、読売新聞社
後援：文化庁、平城遷都1300年記念事業協会　**協賛**：清水建設、大和証券、トヨタ自動車、ニッセイ同和損害保険、藤田観光、文化服装学院、みずほ銀行、光村印刷　**特別協力**：ソニー、ソニービジネスソリューション　**協力**：日本ヒューレット・パッカード　**映像協力**：凸版印刷
観覧料金：一般 1,500円(1,200円)、大学生 1,200円(900円)、高校生 900円(600円)
＊( )内は20名以上の団体料金。中学生以下無料。入館の際に年齢の分かるものをご提示ください＊障害者とその介護者1名は無料(入館の際に障害者手帳などをご提示ください)
お問い合わせ：ハローダイヤル03-5777-8600
展覧会ホームページ：http://todaiji2010.jp/

見どころ❶ 大仏開眼供養会に関わる遺品

大仏は天平勝宝四年(七五二)にほぼ完成。これを祝う開眼供養会が聖武天皇、光明皇后列席のもと行われました。大仏の瞳に筆を入れる開眼師はインドから来た僧菩提僊那。台座を含めると、大仏の目の位置は高さ十五メートルを超し、天皇をはじめとした列席者は、筆につながれた紐を握って、縁を結びました。その時使われた筆、墨、紐が正倉院から出品されます。

大仏殿の前では、伎楽をはじめさまざまな国から伝わった音楽や舞い、劇が演じられました。この時使われた伎楽面10点を展示します。

大仏造立事業には数多くの困難がともないましたが、八幡神の加護を得たことで乗り切りました。この八幡神を祀るために奈良時代に造られた東大寺八幡宮は治承四年(一一八〇)に焼失。今回は、鎌倉時代に快慶が造った八幡神像がお出ましです。

◎**伎楽面 酔胡従**
奈良時代・8世紀　東大寺蔵
伎楽は、インド、東南アジア、シルクロード各地や中国の楽舞を集成したもの。後頭部まですっぽりおおう大型の仮面を着けて行います

縹　縷(開眼縷)
奈良時代・8世紀　正倉院宝物
大仏開眼の際、瞳を点ずる僧が持つ筆にこの縹色の紐をつなげて縁を結びました。聖武天皇、光明皇后もこれを握りました。全長約200メートル(11月2日〈火〉～11月21日〈日〉展示)

◉**僧形八幡神坐像**　快慶作
建仁元年(1201)　東大寺蔵
大仏造立の際に、九州の宇佐の八幡神が、神々を率いて大仏造立を支援するという託宣がありました。それ以来東大寺は八幡神を祀っています。この像は、鎌倉時代の復興に際して重源が入手を希望してかなわなかった画像を忠実に写して造られました

PICK UP

体感！ バーチャル大仏

超高精細画像でリアルに再現された大仏を平成館特別展会場の壁と天井に映し出す、バーチャルリアリティー映像をお楽しみいただきます。

顔や、手を高い位置から見たら？　大仏の背中はどんなふう？　通常では見ることのできない角度から大仏をご覧いただきます。

さらに、奈良時代の大仏殿外観と開眼供養会当日の夜の星空を再現。大仏にこめられた深い祈りの世界を、最新技術で体感してください。

大仏の大きさを実感しよう！

盧舎那仏の右手の実物大レプリカを平成館ラウンジに設置。右手と一緒に写真撮影もできます。

見どころ❷
聖武天皇と光明皇后ゆかりの正倉院宝物
11月2日（火）～21日（日） 期間限定！

大仏に奉納された聖武天皇のコレクション。それが、現在の正倉院宝物の核になるもので、聖武天皇が亡くなった後、光明皇后が東大寺に奉納したのです。さらに開眼供養会で使われたもの、聖武天皇が生前、寺を訪れた時に奉納した品々などが加えられました。正倉院は東大寺の宝物を納める蔵だったので、ここに保管されました。現在は宮内庁が管理しています。国際色豊かな奈良時代の一級品がきわめて良い状態で見られるという奇跡のような存在です。輸送には危険がともなうので、めったに東京には出品されませんが、今回は東大寺の展覧会ということで、特別に公開されます。象と木を染め抜いた布を貼り込んだ屏風、外国や国内各地から集められたさまざまな薬、大きな麻布に墨で描かれた菩薩の絵など計12件をご覧いただきます。会期中二十日間のみの展示です。

＊正倉院宝物展示期間中は月曜日も開館します。

臈纈屛風 象木 奈良時代・8世紀 正倉院宝物
象や木など白く見えるところに蠟をかぶせて染まらないようにして文様をあらわすのが臈纈染の技法です（11月2日〈火〉～11月21日〈日〉展示）

桂心 奈良時代・8世紀 正倉院宝物
漢方薬では桂皮、香辛料としてはシナモンの名で知られています。正倉院には60種の薬物（現存は38種）が21合の唐櫃に収められていますが、そのうち3合がすべて桂心です
（11月2日〈火〉～11月21日〈日〉展示）

墨画仏像 奈良時代・8世紀 正倉院宝物
雲の上にすわる菩薩が帯をひるがえして空中を飛来する様子を、麻布に墨で描いています
（11月2日〈火〉～11月21日〈日〉展示）

◎阿弥陀如来立像 快慶作
鎌倉時代・12～13世紀 東大寺蔵
重源上人が臨終の時そばに置いたと伝えられる仏像。快慶の像は、端整な顔、すっきりとした衣のひだの表現が特色です

見どころ❸
鎌倉彫刻の名品

大仏は治承四年（一一八〇）、平氏の放った火によって焼失しました。当時の朝廷には、大仏と大仏殿を復興する力はありませんでした。この難事業に取り組んだのは重源という僧でした。展覧会の最後の部屋には重源ゆかりの鎌倉彫刻の名品を展示します。重源はただお金を集めるだけではなく、建築や仏像の形に中国風を導入するなど、プロデューサーのような側面も持っていました。鎌倉時代を代表する仏師快慶は重源の信仰上の弟子で、重源の指示でたくさんの仏像を造っています。その快慶の代表作阿弥陀如来立像、地蔵菩薩立像が出品されるほか、造像に重源が関わった可能性のある五劫思惟阿弥陀如来坐像も紹介します。また、重源の肖像彫刻は、重源の強靭な意志を感じさせる名作です。

（浅見龍介）

◉重源上人坐像（部分）
鎌倉時代・13世紀 東大寺蔵
最晩年の姿を写したもの。背は曲がり、からだはやせていますが、手は大きく、眼は鋭い

◎五劫思惟阿弥陀如来坐像
鎌倉時代・12～13世紀 五劫院蔵
確証はありませんが中国で造られた可能性のある異色の像。その造像には、中国に3度渡ったという重源上人が関わっていると考えられます

関連事業

◆記念講演会
日時：①10月30日（土）13時30分～15時
「東大寺大仏と天平彫刻」
金子啓明（特任研究員）
②11月6日（土）13時30分～15時
「大仏さまにこめられた思い―一枝の草一把の土―」
北河原公敬（華厳宗大本山東大寺別当）
会場：平成館大講堂
定員：380名（事前申込制。応募者多数の場合は抽選）
申込方法：往復はがきの「往信用裏面」に郵便番号、住所、氏名（ふりがな）、電話番号、聴講を希望する番号（①または②）と日付を、「返信用面」に郵便番号、住所、氏名を明記の上、下記までお申し込みください。1枚のはがきで、1つの講演会につき2名まで申し込み可。2名の場合は、それぞれの氏名を必ず明記してください。申し込み多数の場合は、抽選の上、聴講券をお送りします。
申し込み先：〒103-0014 東京都中央区日本橋蛎殻町1-28-9ヤマナシビル4Fウインダム内「東大寺大仏―天平の至宝―」広報事務局 講演会（①10月30日〈土〉／②11月6日〈土〉）係
締切：①10月8日（金）／②10月15日（金）必着

◆光のイベント
「なら燈花会」10月22日（金）18時～ 平成館前庭
「なら瑠璃絵」11月12日（金）18時～ 平成館前庭
＊天候により中止になる場合があります。

◆長老講話とこどもによる新作「善財童子」公演
11月13日（土）14時～16時10分 大講堂
お問い合わせ：なら100年会館
電話：0742-34-0100

◆東大寺僧侶によるお話
毎週火曜日（11月2日を除く）
13時30分～（30分）大講堂
＊都合により予告なく変更されることもあります。

◆東大寺僧侶による夜のお話
10月8日（金）、22日（金）、29日（金）
11月5日（金）、12日（金）、19日（金）、26日（金）
12月10日（金）
18時～（30分）大講堂
＊都合により予告なく変更されることもあります。

◆東大寺サミット
11月18日（木）、19日（金）大講堂
お問い合わせ：実行委員会事務局
電話：0742-34-5135

◆花まつりを体験
10月9日（土）～11日（月・祝）平成館ラウンジ
花御堂（はなみどう）を組み、誕生仏と灌仏盤を展示します。13時～18時は希望者に甘茶をかけていただき、花まつりを体験していただきます。

EVENT

◉は国宝、◎は重要文化財、○は重要美術品を表します。とくに表記のないものは東京国立博物館蔵です。

特別展 文化財保護法制定60周年記念

仏教伝来の道 平山郁夫と文化財保護

予告

文化遺産の保護に尽力した平山郁夫氏の業績を振り返る展覧会。薬師寺の大唐西域壁画を全点一挙公開します！

石造観音菩薩立像 アンコール期・12～13世紀
アンコールトム遺跡に安置されていた石像

絹本着色地蔵菩薩立像幡 8世紀
敦煌で発見された色鮮やかな幡

昨年十二月、日本画家の平山郁夫氏が永遠の眠りにつかれました。平山氏は、創作活動と表裏一体をなすものとして、世界各地で危機に瀕している、かけがえのない文化遺産の保護に尽力しました。そして、文化遺産を保護していくためには信仰心が重要であると考え、インドから中国を経て日本に伝わった仏教の伝来過程にも注目し、関連遺跡をくまなく旅しています。

この展覧会では、平山郁夫氏の文化財保護に関わる偉大な活動を顕彰し、その業績をとおして文化財保護の重要性や課題などを改めて広く知っていただこうとするものです。インド・パキスタンをはじめ、アフガニスタン、中国、カンボジアなど、平山氏がことに関心を寄せた仏教伝来の道に沿った仏像や壁画の数々とともに、文化財保護活動の集大成として制作し、薬師寺玄奘三蔵院に奉納された畢生の大作・大唐西域壁画を全点展示いたします。

（松本伸之）

全長40メートルにも及ぶ平山郁夫氏の傑作「大唐西域壁画」が収められた薬師寺玄奘三蔵院の内部

特別展「仏教伝来の道 平山郁夫と文化財保護」 2011年1月18日（火）～3月6日（日） 平成館

主催：東京国立博物館、NHK、NHKプロモーション、朝日新聞社 **観覧料金**：一般1,500円（1,300円／1,200円）、大学生1,200円（1,000円／900円）、高校生900円（700円／600円）
※（ ）内は前売り／20名以上の団体料金。中学生以下無料 ※障害者とその介護者1名は無料。入館の際に、障害者手帳などをご提示ください。 **お問い合わせ**：ハローダイヤル 03-5777-8600

東洋館

リニューアルオープンへの道 第3回

ミニ東洋館からプレ東洋館へ

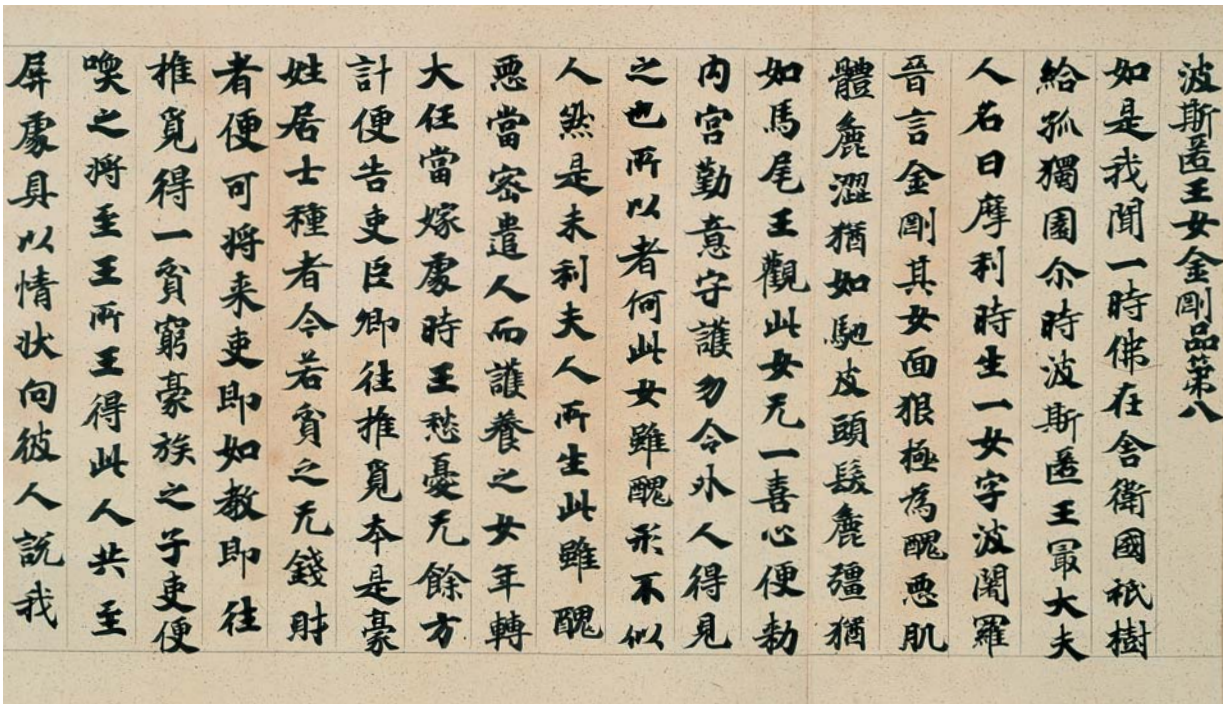
七月末から八月初めにかけて表慶館（アジアギャラリー）の展示が替わりました。第1室で中国歴代の鏡が新たに加わり、第8室の東南アジアの展示では、フランス極東学院交換品が大半を占めました。そのため、展示室の解説もいくつかつけかえました。

表慶館のほか、平成館企画展示室の「古代エジプトのミイラ」（7月13日～9月20日）、本館特別2室の「ワヤン―インドネシアの人形芝居―」（9月14日～12月5日）のように、東洋の作品が、ささやかながら他の建物で展示されています。東洋館が工事中だから、という理由だけではなく、以前の東洋館にない、新しい展示を模索しようという意図もあります。

最初はどうしても昔の展示のイメージが抜けきらなかったのですが、ミニ東洋館（以前の東洋館の縮小版）から、プレ東洋館（新たな東洋館の先駆け）になるように、展示を継続しながら思案の毎日です。

（白井克也）

表慶館（アジアギャラリー） 中国の青銅器の展示風景


波斯匿王女金剛品第八
如是我聞一時佛在舍衛國祇樹
給孤獨園尒時波斯匿王冨大夫
人名曰摩利時生一女字波闍羅
音言金剛其女面狼極為醜惡肌
體麁澀猶如駞皮頭髮麁澀猶
如馬尾王觀此女无一喜心便勅
内宮勤意守護勿令外人得見
之也所以者何此女雖醜形不似
人然是未利夫人所生此雖醜
惡當密遣人而護養之女年轉
大任當嫁處時王愁憂无餘方
計便告吏臣御往推覓本是豪
姓居士種者令若貧之无錢財
者便可將来吏即如教即往
推覓得一貧窮豪族之子吏便
喚之將至王所王得此人共至
屏處具以情狀向彼人說我

◉賢愚経断簡（大聖武）（部分） 伝聖武天皇筆 奈良時代・８世紀
←拡大すると、経文には墨でなぞって形を整えようとした痕跡がみられます

これだけは見逃せない！おすすめのこの1点

東大寺ゆかりの名筆

国宝 賢愚経断簡（大聖武）

10月5日(火)～11月14日(日) 本館2室 国宝室

『賢愚経』は、仏教的な立場からみた賢人と愚人の寓話を収めた経典です。中国北魏の慧覚らが十三巻本として漢訳し、その後、巻数や章立てが変更されました。本巻は「波斯匿王女金剛品第八」にはじまり、「金財因縁品第九」、「華天品第十」、「宝天品第十一」の内題を含む部分と、「摩訶令奴縁品第四十八」の末尾の計二六二行です。もとは東大寺に伝来した一具の奈良朝写経で、東大寺本に「賢愚経第十五」とあるので、十六巻か十七巻本であったと考えられています。

料紙は「茶毘紙」とよばれる厚手の紙に淡墨界（薄墨による罫線）を施しています。「茶毘紙」という名称は、骨粉を漉き込んだようにみえるところから付けられました。かつては麻紙に白土を混入し、防虫と荘厳をかねて香木の粉末を漉き込んだものといわれていましたが、近年の調査で、マユミという木の繊維から作られたマユミ紙であることが明らかとなりました。

本文は、通常は一行に十七字書写されるところ、十二～三字の雄渾で堂々とした大字が特徴です。古来より聖武天皇の宸筆と伝え、その断簡は「大聖武」あるいは大和国の東大寺の伝来から「大和切」と称して、各時代の名筆を貼り込んだ古筆手鑑の巻頭を飾り、手鑑の格式を示す指標となっていることで知られています。

筆跡については、唐人か日本の写経生とする説がありますが、「大聖武」の書風は、奈良時代中期以前の写経には見られません。中国・北魏の「始平公造像記」（五世紀）と似ていることが指摘されていますが、経文には墨でなぞって肉太な独特の書風に整えようとした痕跡があり、新しいスタイルを創造する意図があったのでしょうか。のちの「大字法華経」（和歌山・竜光院所蔵）や、魚養経と呼ばれる薬師寺伝来の「大般若経」などの書風に共通した趣があり、肉太で重厚な奈良時代後期の写経を生み出す契機になったと考えられます。

「大聖武」は、ほとんどが断簡として所々に分蔵され、他にまとまった残巻は、前田育徳会本、白鶴美術館本（いずれも国宝）で、東大寺本のみは、巻第十五（四六七行）の一巻を完存しています。この東大寺本が「東大寺大仏―天平の至宝―」展に出品されていますのでぜひご覧ください。（高橋裕次）

本館2階

日本美術の流れ 10-11月の必見ガイド

武士の装い ―平安～江戸

鎌倉時代から江戸時代までに用いられた刀剣や甲冑などを展示します。

8月31日→11月28日

必見!
◎黒漆太刀拵
鎌倉時代・13～14世紀
源頼政が鵺を退治した際に天皇より賜ったとされる太刀を納めた拵

4 茶の美術

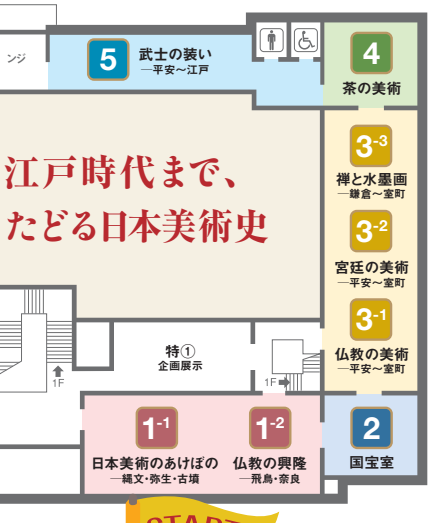
日本の伝統文化である茶の湯のなかで育まれた美術を紹介します。

8月10日→10月31日
月が美しい季節にちなみ、月にゆかりのある茶陶を展示します。

必見!
色絵月に蟷螂文茶碗 永楽保全作
江戸時代・19世紀
作者の永楽保全が自ら「仁清写 茶碗」と箱書きしています

11月2日→2011年1月23日
炉開きに合わせて備前(伊部焼)や織部焼の作品を選びました

必見!
伽藍石香合 伊賀 江戸時代・17世紀
寺院の大伽藍を支える礎石になぞらえた呼び名です



3-3 禅と水墨画 ―鎌倉～室町

禅宗の本格的導入にともない成立した水墨画と墨跡をご覧いただきます。

10月5日→11月14日

必見!
◎**如意輪観音図** 良全筆
南北朝時代・14世紀
山本達郎氏寄贈
水墨画が仏画に巧みに導入され、光と奥行も表わされています

11月16日→12月26日

必見!
一行書 夢窓疎石筆
南北朝時代・14世紀
山本富子・山本賢二氏寄贈
室町時代における臨済禅の隆盛の基を作った夢窓疎石の書

3-2 宮廷の美術 ―平安～室町

平安から室町までの貴族による宮廷美術の世界を紹介します。

10月5日→11月14日
職人歌合絵の最古の遺品や、王朝貴族の洗練された感覚がうかがえる和漢朗詠集、華麗で繊細な装飾を施す金工の名品など。

必見!
◎**和漢朗詠集巻下**(益田本) 平安時代・11世紀
中国・宋時代の舶載の唐紙や、染紙、雲紙などを使用しています

11月16日→12月26日
貴族社会がささえたやまと絵と書の日本的世界。

必見!
◎**後三年合戦絵巻巻下** 飛騨守惟久筆 南北朝時代・貞和3年(1347)
いくさの現実をも克明に描き切った合戦絵巻の白眉

3-1 仏教の美術 ―平安～室町

絵画、彫刻、書跡など、日本仏教の多様で多彩な世界。

10月5日→11月14日

必見!
◉**十六羅漢図(第九尊者)**
平安時代・11世紀
日本仏画の到達点のひとつ。繊細で微妙な線と色彩がみられます

10月5日→12月26日

必見!
◉**金銅能作生塔** 鎌倉時代・13世紀 奈良・長福寺蔵
力強い表現で、鎌倉時代の金工の水準の高さをよく示す舎利容器です

1-1 日本美術のあけぼの ―縄文・弥生・古墳

日本美術の原点として縄文から古墳時代の代表作品を紹介します。

5月11日→11月14日
各時代の代表作品に加え、絵画をもつ銅鐸(どうたく)を取り上げます。

必見!
◎**流水文銅鐸** 兵庫県豊岡市気比出土
弥生時代(中期)・前2～前1世紀
銅鐸に描かれた絵画から弥生時代の人びとの生活の様子をうかがうことができます

11月16日→2011年5月8日
各時代の代表作品に加え、人物埴輪(はにわ)を取り上げます

必見!
◎**埴輪 盛装の女子** 群馬県伊勢崎市豊城町横塚出土 古墳時代・6世紀
文様で飾られた上着で盛装した古墳時代の女性の姿です

1-2 仏教の興隆 ―飛鳥・奈良

飛鳥時代から奈良時代にかけての仏像や経典など、古代の仏教美術を紹介します。

10月5日→11月14日

10月5日→12月26日

必見!
紺紙銀字華厳経巻第十六残巻(二月堂焼経) 奈良時代・8世紀
「東大寺」展に関連して、二月堂伝来の経典と光明皇后の祈願経「摩訶僧祇律 第三十九巻」(五月一日経)などを展示します。

必見!
◎**日光菩薩坐像**
奈良時代・8世紀
京都高山寺旧蔵。丁寧に表わされた髪や端正な顔、写実的な衣など天平彫刻らしさがみられます

2 国宝室

絵画・書跡の名品をゆったりした空間で心静かに鑑賞していただくための展示室です。

10月5日→11月14日

必見!
◉**賢愚経断簡(大聖武)** 伝聖武天皇筆
奈良時代・8世紀
「東大寺」展に関連して聖武天皇筆と伝えられる作品を展示します

11月16日→12月26日

必見!
◉**遺告** 良源筆 平安時代・天禄3年(972) 京都・廬山寺蔵
比叡山中興の祖、良源の遺言状の草稿。病床で14日をかけて書き終えたとあります

7 屏風と襖絵 ―安土桃山・江戸

画面の作品から生み出される空間の広がりを感じとってください。

9月22日→10月31日
秋の花鳥風月

必見！
◎秋草図屏風　俵屋宗雪筆
江戸時代・17世紀
黄金の野辺に秋の草花が咲き乱れ、澄みきった空を感じさせます

11月2日→12月12日

必見！ ◎山水図屏風
彭城百川筆　江戸時代・延享4年(1747)
透明感あふれる色彩で描かれた山水に遊ぶ

5
6

8-1 暮らしの調度 ―安土桃山・江戸

安土桃山から江戸時代にかけて人々の身の回りを飾った調度や器を展示します。

8月3日→10月24日
季節に合わせ、秋にちなんだ意匠の品々をご覧いただきます。

必見！
鼠志野秋草図額皿　美濃　安土桃山～江戸時代・16～17世紀
秋草はさまざまな工芸品に見られる、日本の文様の代表格

10月26日→2011年1月16日
季節に合わせ、冬にちなんだ意匠の品々をご覧いただきます。

必見！
松竹蒔絵貝桶　江戸時代・19世紀
松も竹も、冬の寒さに耐える常緑の植物。不老につながるところから、おめでたい文様に

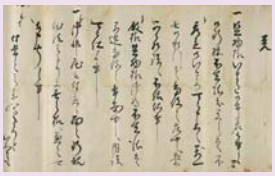
8-2 書画の展開 ―安土桃山・江戸

さまざまな表現で広がる豊かな視覚文化の時代を体感してください。

9月22日→10月31日
江戸時代初期に活躍する武士・僧侶・茶人など、有名人たちの書。

必見！
芥子下絵和歌巻　本阿弥光悦筆　江戸時代・寛永10年(1633)
芥子を描いた下絵と文字のコラボレーションに寛永の三筆の一人光悦の技が冴えます

11月2日→12月12日
江戸時代各地を支配した大名たち「殿様」に関わる作品や古文書を展示します。



必見！
毛利家家老連署申渡書
江戸時代・元禄15年(1702)
金子爲吉氏寄贈
不行跡の治まらない殿様に対し、家臣による対策を上申した古文書。各藩では家中不行届きが幕府に発覚するのを最も恐れていたことがうかがわれます

必見！
◎小袖 白綾地秋草模様
尾形光琳筆　江戸時代・18世紀
尾形光琳が自ら筆を取った数少ない描絵の小袖
(8/31～10/24)

必見！
小袖 浅葱縮緬地花紅葉籠模様
江戸時代・18世紀
籠から優雅に散りゆく花と紅葉の模様は、最盛期の友禅染で染められます
(10/26～12/19)

9 能と歌舞伎

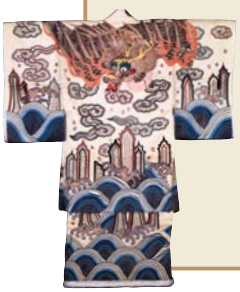
江戸時代までの能の面と装束・歌舞伎衣装を紹介します。

特集陳列「絹糸と金箔の和様美―縫箔―」

8月31日→10月24日
表着から腰巻へ。大きく役割転換した縫箔の歴史をご覧いただきます。

必見！
◎縫箔 茶地百合御所車模様　安土桃山時代・16世紀　金春座伝来
おおらかな桃山文化期の刺繍と精緻な摺箔模様のハーモニー

10月26日→12月19日
[歌舞伎衣装]江戸時代末期、大奥で活躍した役者・坂東三津江が用いた衣装を中心に展示。



必見！
羽織・着付 白呉絽地龍波濤模様
江戸時代・19世紀　板東三津江所用
高木キヨウ氏寄贈
立体感のある豪快な刺繍とダイナミックなデザインに目を奪われます

10 浮世絵と衣装 ―江戸

[衣裳] 小袖や髪飾り、印籠や根付など江戸時代のファッションに関する展示です。

8月31日→10月24日
日本人が特に好んだ、菊や萩といった秋草模様をデザインした小袖を展示。

10月26日→12月19日
秋が深まる紅葉の季節にちなんだ模様を中心に展示。

[浮世絵] 江戸時代の美人や風景を描いた版画と肉筆の浮世絵を展示します。

9月22日→10月17日
墨摺絵、紅絵、紅摺絵など多様な浮世絵版画と、歌川広重の江戸と京都の名所絵など。

10月19日→11月14日
初期の役者絵や、春信の美人画、北斎、広重の風景画のほか、秋にちなんだ作品。

11月16日→12月12日
歌麿、北斎、国芳など有名絵師の代表作で浮世絵の流れがわかるように構成された展示。

必見！
◎雨夜の宮詣　鈴木春信筆　江戸時代・18世紀
美しい色が奇跡的に残る鈴木春信の代表作
(9/22～10/17)

必見！
農業満作出来秋之図
勝川春潮筆　江戸時代・18世紀
当時の農作業の様子がわかる貴重な浮世絵
(10/19～11/14)

必見！
◎青楼藝者撰・いつ花　鳥文斎栄之筆　江戸時代・18世紀
すらりとした長身の美人を描き、時代の人気を集めた栄之の代表作
(11/16～12/12)

＊1-1 は「本館1室-1」を、2 は「本館2室」を表します。

注目の特集

本館 特別1室 企画展示

恒例秋の名品選

特集陳列

「中国書画精華」
～海をわたってきた名品たち～

10月19日(火)～12月12日(日)
※11月15日一部展示替あり

平安時代にわが国に舶載された唐時代の写本の中には、反故紙として裏面が再利用され、今日改めて本紙を見ると、中国ではすでに失われた貴重な典籍であるために、国宝に指定された例があります。また鎌倉時代以降、禅宗とともに数多く舶載された宋元の絵画は、書院や茶室において、日本人の趣味にもとづいて鑑賞され親しまれてきました。それらの中にも、本場中国ではすでに稀少となっている作例が少なくありません。明治以降には、中国本来の文人趣味を理想とする知識人により、中国に伝世する歴代の書画の精品が収集されました。こうした中国の書画の名品を特集します。

今年は宋元時代の絵画の名品の一部が里帰りし、中国・上海博物館の「千年丹青 ―日本・中国珍蔵 唐宋元絵画精品展―」(9月29日〈水〉～11月23日〈火〉)に出陳されます。訪中のご予定のある方は、是非、本特集とあわせてご覧ください。

(富田 淳)

◎**猿図** 伝毛松筆 南宋時代・13世紀
11月14(日)まで展示
体毛の一本一本までもが精密に描かれるこの猿図は、武田信玄が曼殊院の覚恕に寄進したもの

本館14室 工芸

精密な技術 麗しい意匠

特集陳列

「中国の漆器 わざとデザイン」

10月5日(火)～11月28日(日)

漆の樹液を用いて器物を製作する漆工は、日本ばかりでなく、中国・朝鮮半島・東南アジアにおいても作られ、用いられてきたアジアを代表する工芸です。しかし同じく漆を材料としながら、その技法や表現には地域ごとの特徴があります。この特集陳列では、中国の漆工を紹介します。中国では色漆を厚く塗り重ねて文様を彫刻する彫漆、貝片を文様に成形して漆器に貼り付ける螺鈿、線彫りした文様に金箔をしずめる鎗金などの技法があります。これらの技法を駆使して、絵画のような花鳥や人物や宮殿、皇帝の象徴や吉祥の意味を込めた文様、幾何学的に表現された唐草文様などが表わされます。また、色彩と形態に凝った無文漆器というものもあります。これら中国漆工の豊かな表現をご覧ください。

(猪熊兼樹)

松竹梅填漆合子(上) 明時代・15世紀
塗り重ねた漆に文様を彫り込み、さまざまな色の漆を埋め込んで、松・竹・梅を表わします
桃実堆朱盆(左) 明時代・16世紀
朱漆を塗り重ねて彫刻する堆朱。それぞれ福・禄・寿の文字を記した3つの桃の実を表わします

本館16室 歴史資料

模写に見る料紙装飾の粋

シリーズ「歴史を伝える」

特集陳列

東京国立博物館の模写・模造
―平家納経―

10月19日(火)～11月28日(日)

東京国立博物館は明治五年(一八七二)の創立・開館以来、さまざまな模写・模造品を制作、収集してきました。今回はその中から「平家納経」を特集します。

「平家納経」(原本・国宝、厳島神社所蔵)は、平清盛が長寛二年(一一六四)に厳島神社に奉納した一品経です。その豪華絢爛で贅をつくした料紙装飾はほかに例がなく、江戸時代の版本にも紹介されていました。明治十五年に内国絵画共進会が東京で開かれると、「平家納経」も展示されました。そのとき制作された模写をご紹介します。また、厳島神社の依頼、益田鈍翁らの援助により制作された複製本「平家納経」(田中親美模)は原本の美しさをそのまま伝えています。模写・模造から、「平家納経」の優美な世界をご堪能ください。

(恵美千鶴子)

平家納経(模本) 田中親美模 大正時代・20世紀
厳島神社の依頼により制作されました

本館 特別2室 企画展示

ジャワ島の自然と歴史がはぐくんだ芸能

特集陳列

「ワヤン ―インドネシアの人形芝居―」

9月14日(火)～12月5日(日)

ワヤン・クリ カルノ(部分) インドネシア 中部ジャワ 21世紀 松本亮氏寄贈
カルノは主人公アルジュノと同じ母のもとに生まれながら、戦わざるをえなくなる悲劇の人

インドネシアの伝統的な人形芝居ワヤンは、ユネスコの無形文化遺産にも登録されています。水牛の革・角・骨で作られた影絵人形のワヤン・クリは中部ジャワ・東部ジャワやバリ島で、木彫りの人形を用いるワヤン・ゴレは西部ジャワで盛んです。

演じられるのは、古代インドの壮大な叙事詩『マハーバーラタ』や『ラマーヤナ』ですが、インドネシアの歴史や自然の中でアレンジされ、登場人物の名前もジャワ語になっています。

人形遣いダランは、すべての人形を一人で操り、せりふを語り、そして伴奏のガムランに演奏の指示をも下します。

東京国立博物館は、過去百年間に四人の方からワヤン・クリやワヤン・ゴレのご寄贈を受けました。この特集陳列では、ご寄贈されたすべてのワヤンを紹介します。

(白井克也)

平成館 企画展示室

千二百年以上前の染物

特集陳列

「東京国立博物館所蔵 正倉院の染物」

11月2日(火)～11月28日(日)

奈良時代の染物の技法には「三纈」と呼ばれる纈纈、蔫纈、夾纈があります。なかでも夾纈は、多彩で大形の文様を表わすことができることから、錦と並んで表の目立つところに用いられました。夾纈の特徴は、折り畳んだ裂を文様を彫り込んだ板に挟んで染めるため、染めたのち裂を広げると、文様は左右または四方対称に現れることです。さらに、各文様の色の境目が輪郭線で縁取られたように白くみえます。この夾纈平絹にもその特徴が認められます。文様は細い帯紐で八稜形を半裁にした覗花形花文風の文様を左右に置き、中央の間地には一筆書きのような線で八稜形花文を表わしています。この文様で注目される点は、聖武天皇一周忌で飾られた羅の道場幡の坪裂に施された羅の花形裁文(アップリケ)に形が似ており、文様の出所をめぐって興味深いものがあります。なお、同種の裂は正倉院にのこる最大級の幡である夾纈袷五坪幡(南倉185―第126号櫃)の幡足に用いられています。千二百年以上も前の斬新な染物をお楽しみください。

(沢田むつ代)

淡茶地花文風夾纈平絹幡足 奈良時代・8世紀
中央には裂を折り畳んだ部分に染料がにじみでています

平成館 考古展示室

日本独自の鉄製甲冑の成立と展開

特集陳列

「古墳時代の甲冑」

9月14日(火)～12月12日(日)

竪矧板革綴短甲
山梨県甲府市 大丸山古墳出土 古墳時代・4世紀
古墳時代前期の革紐でつづった甲冑。大陸の甲冑の影響が強い

帯金式眉庇付冑・頸甲・鋲留短甲
福井県永平寺町二本松山古墳出土 古墳時代・5世紀
古墳時代後期の鋲でとめた甲冑。日本独自のかたち

古墳時代の甲冑は古墳時代の文化やヤマト政権の軍事的性格を反映する重要な考古資料です。

弥生時代、戦闘のなかで狩猟具を転用した武器が発生し、やがて戦闘専用の金属製の武器が登場すると、それに対応して防御用の甲冑が生まれたと考えられます。古墳時代前期の出土品には若干の舶載品と朝鮮半島南部出土品によく似た短甲が見られます。中期になると、朝鮮半島の高度な鉄生産・加工技術の摂取によって生まれた日本列島独自の帯金式甲冑が成立し、畿内地方で集中的な生産がはじまったと想定されています。

この特集では、最近の調査・研究成果を踏まえ、古墳時代前期から後期までの資料を比較して、帯金式甲冑の系譜と成立・展開や中国・朝鮮半島の甲冑との関係をご紹介します。

(古谷 毅)

平成館 企画展示室

紙で比較してみる

特集陳列

「日本・中国・朝鮮の料紙」

9月28日(火)～10月24日(日)

紀元前一五〇年頃に中国で発明された紙の製法は、朝鮮半島を経て、日本に伝わりました。奈良時代には国家的な写経事業や、行政の整備が行われ、全国に紙漉きの技術が広まります。平安時代になると、貴族は和歌・物語などにふさわしい優雅で繊細な紙を求め、中国や朝鮮から多くの料紙が輸入されました。十一～十二世紀は、装飾料紙の全盛期で、華麗な文様を摺り出した中国の唐紙が珍重され、これを模倣した国産品が登場します。また、再生紙を活用した各種の色紙による美しい装飾本も作られました。

この展示では、日本・中国・朝鮮の料紙について、その種類や特徴、作り方などをご紹介いたします。

(高橋裕次)

◉淮南鴻烈兵略間詁(部分)(紙背:秋萩帖 伝小野道風筆) 唐時代・8世紀
料紙の各継目には伏見天皇(1265～1317)の花押があり、天皇寵愛の品であったことがわかります

気になるこの部屋・この作品

本館3室 禅と水墨画

重文 如意輪観音図 良全筆

10月5日(火)～11月14日(日)

良全は十四世紀に活躍した画家です。彼は当時の禅宗寺院の代表格の一つ、京都の東福寺を活動拠点にしていました。円光の背後にほのかに見える岩を淡い墨で描き、画面全体が観音をとりまく空間として表わされています。光と奥行のある空間を感じられるこの作品は、十四世紀の水墨の仏画として最も成功しているものといえましょう。衣や宝冠等には金泥を用いて繊細な文様が表わされ、画面の右下には「海西人良全筆」の落款が金泥で書かれています。平成十三年度山本達郎氏寄贈。（救仁郷秀明）

◎**如意輪観音図** 良全筆
南北朝時代・14世紀 山本達郎氏寄贈
水墨画が仏画に巧みに導入され、光と奥行も表わされています

本館3室 宮廷の美術

鈍翁ゆかりの名品 重文 和漢朗詠集巻下（益田本）

10月5日(火)～11月14日(日)

◎**和漢朗詠集巻下**（益田本） 平安時代・11世紀
中央は上下に藍色の雲を配置した雲紙です

この作品は、三井財閥の大番頭で茶人・古美術コレクターとして有名な益田鈍翁（一八四七～一九三八）の所蔵だったことから、「益田朗詠」「益田本」の名で呼ばれています。ほぼ正方形の染紙や、雲紙、飛び雲紙、蠟箋に、雲母砂子や金銀の揉み箔を散らした美麗な料紙を交互に並べて、『和漢朗詠集』巻下の「雑」部が一筆で書写されています。

今回の本館3室「宮廷の美術」では、様々な『和漢朗詠集』の写本を展示します。本巻をはじめ、「高野切」第一種と同筆の「大字和漢朗詠集切」、同じく「高野切」第二種と同筆の「関戸本和漢朗詠集切」など、『和漢朗詠集』の書写の世界をお楽しみください。（恵美千鶴子）

本館4室 茶の湯の美術

懐石料理の器二種 古染付寄向付

8月10日(火)～10月31日(日)

志野草図向付

11月2日(火)～2011年1月23日(日)

向付とは茶事の懐石料理に使う器で、お造りなどを盛り付けて膳の向側に置くことからこう呼ばれます。中国の景徳鎮で明代末に焼かれた古染付の向付は、筍や兎、貝など異なった形に染付で描きこまれた絵がユニークです。志野向付は、いずれも四隅を花形に切り取った形ですが見込や縁に描かれた模様はよく見ると少しずつ趣を異にします。向付に用いるやきものは磁器や陶器、和物や唐物と種類を問わず形も多様であることから、どの向付を用いて料理を出すかというのは亭主の腕の見せどころといえます。（横山梓）

古染付貝形皿（寄向付のうち：右） 中国・景徳鎮窯
明時代・17世紀 横河民輔氏寄贈 日本の茶人の注文によって景徳鎮で焼造された古染付。厚手のつくりが特徴的です
志野草図向付（左） 美濃 安土桃山～江戸時代・16～17世紀
食事が進んで食材の下に隠れていた芦が現れたときをぜひ想像してみてください

本館5・6室 武器・武具

秀吉ゆかりの華やかな拵 重文 朱塗金蛭巻大小拵

8月31日(火)～11月28日(日)

◎**朱塗金蛭巻大小拵** 安土桃山時代・16世紀
華やかな安土桃山時代の文化を伝える拵です

朱塗の鞘に二筋の金の薄い板を螺旋状に巻き、朱と金の色彩的なコントラストが印象的な拵（刀剣の外装）です。柄は黒塗りの鮫皮に黒糸を巻いており（後補）、鞘の華やかさが一層引き立てられています。これは豊臣秀吉の用いた拵で、その死後拵と刀身は溝口家に、鐔は浅野家へと贈られました。大小拵とは、刀と脇差を指す際に鞘の塗りや柄巻き、金具などを二刀揃えた拵で、室町時代末期から登場しました。これは大小拵の早い時期の作品というだけではなく、安土桃山時代の華やかな文化を象徴するものといえるでしょう。（酒井元樹）

本館13室 漆工

精緻な技巧による細密な描写 重文 御所車蒔絵硯箱

9月14日(火)～11月28日(日)

水辺に御所車を配し、今を盛りと咲き誇る菊を描いています。わずかに盛り上げた高蒔絵を基調にして、雲や岩・土坡にはごく小さく切り刻んだ金の薄板を散りばめ、蒔絵の線で波濤を精細に描いています。さらに石畳には金と青金という微妙に色味の異なる金粉を使い、八重菊の花弁や葉脈も細密に表わすなど、高度な蒔絵技術を駆使して丁寧に描きこんでいます。しかし、技巧が精緻で均衡のとれた描写をさまたげず、品のよさを保っているところが、この作品の特長といえるでしょう。室町時代に完成した伝統的な蒔絵の表現を継承した、江戸時代初期の名品です。（竹内奈美子）

◎**御所車蒔絵硯箱** 江戸時代・17世紀
御所車を主題とした意匠には、典雅な王朝時代への憧憬がこめられています

柳瀬荘（やなせそう）

アート・教育プロジェクト

埼玉県所沢市の「柳瀬荘」において、地域に眠る文化・芸術・自然・建造物から生まれるアートの開拓と地域との対話を企画テーマにして、当館と日本大学芸術学部の共催により美術鑑賞と教育普及のプログラムを実施します。

絵画や版画、彫刻の作品展では、古民家と現代アートのコラボレーションをお楽しみください。

ワークショップでは、参加者全員で庭の竹を切り出して、竹のドームを組み上げ、共同作業の楽しさを体験する等、多彩なプログラムを用意しました。

「柳瀬荘」は、実業家、また茶人としても名高い松永安左エ門氏（耳庵）の旧別荘で、昭和二十三年（一九四八）に当館にご寄贈いただき五千坪を超える敷地には、武蔵野の面影を今にとどめる雑木林のなか、江戸時代の民家「黄林閣（おうりんかく）」（重要文化財）、書院造りの「斜月亭（しゃげつてい）」、茶室の「久木庵（きゅうぼくあん）」があります。通常は毎週木曜日、外観のみ無料で公開していますが（10時～16時、ただし10月～3月は15時まで）、期間中は特別に建物の内部も見学することができますので、ぜひこの機会に足をお運びください。

柳瀬荘「黄林閣」
東武東上線志木駅から跡見女子大行きバスで15分。「中野」下車徒歩5分
西武新宿線・池袋線所沢駅から志木駅南口行きバスで25分「西側」下車徒歩3分
通常は毎週木曜日10:00～15:00公開
現地問い合わせTEL: 04-2944-2009

日本大学芸術学部美術学科絵画コース 教職員展

「和の空間」をテーマにして、日本家屋の空間に絵画、版画、ドローイングの平面及びオブジェの作品を展示し、古民家と現代アートのコラボレーションを試みます。

日時：10月7日（木）～31日（日）〈木～日のみ開催〉
10：00～16：30

ワークショップ「竹のドームをみんなで作る」

工作キットの組み立てでは味わえない「ものと空間づくり」を体験し、チームワーク、協調の重要性を学びます。

日時：10月3日（日）10：00～16：00　＊雨天中止
講師：桑原淳司教授 他 大学院生
対象：小学生から一般まで（小学生3年生以下は父母同伴）
定員：20名［応募締切 9月25日（土）まで］

ワークショップ「柳瀬荘Tシャツ工房」

紙に描いた作品をパソコンで取り込み、Tシャツやエコバックにプリントしてアートシャツ・バックを作る。

日時：10月24日（日）10：00～16：00　＊雨天中止
講師：福島唯史准教授
対象：小学生から一般まで（小学3年生以下は保護者同伴のこと）
定員：20名［応募締切 10月9日（土）まで］

日本大学芸術学部美術学科彫刻コース 教職員展

古民家とその庭、雑木林、竹林などに彫刻作品を展示します。

日時：11月4日（木）～28日（日）〈木～日のみ開催〉
10：00～16：30

ワークショップ「光で絵を描く」

ハイブリッド写真術で写真像の制作を行います。

日時：10月17日（日）10：00～15：00　＊雨天中止
講師：鈴木孝史教授
対象：小学生から一般まで（小学3年生以下は保護者同伴のこと）
定員：20名［応募締切 10月2日（土）まで］

ワークショップ「穴・Holeを空間に出現させる」
―パーソナルボックスを作ろう―

ダンボール箱を解体し内側に柳瀬荘の風景を描き、描いた面を外側にして再度組み立て色々な場所に置いて変化を楽しむ。

日時：11月7日（日）10：00～16：00　講師：建畠朔弥教授
対象：小学生から一般まで（小学3年生以下は保護者同伴のこと）
定員：20名［応募締切 10月23日（土）まで］

※入場料・参加費はすべて無料です。※ワークショップは事前申込制です。「講座名、住所、氏名、学年（年齢）、電話番号、必要に応じて保護者名」を記入してファックスでお申し込みください。
FAX 04-2993-2210「日本大学芸術学部美術学科：有地」宛　※総合問い合わせ先　日本大学芸術学部（所沢校舎）　TEL: 04-2993-2211

1000年後の未来にバトンタッチ！

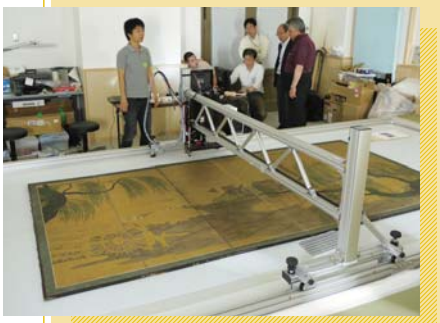
保存と修理情報

重要美術品 宇治橋図屏風の本格修理を開始しました

当館では、百年先、千年先のわれわれの子孫に貴重な文化財を伝えるために、綿密な調査に基づいた修理を計画・実行しています。ここでは、こうした修理に関わる情報をお伝えします。

宇治橋図屏風は、安土桃山から江戸時代初期に制作された六曲一双の金地屏風で、左右両隻に金箔を押した橋を掛け渡し、銀色の月と柳と水車が描かれています。事前の診断では、柳を描いた緑色顔料の剥落、盛上げ胡粉に生じた亀裂や剥離が多数確認されています。修理を行う時には、事前に状態を正確に理解すること、記録することが必要です。これまでに、デジタルスキャナーによる高精細画像の記録、X線やテラヘルツ波を用いた構造解析、蛍光X線分析による顔料分析などを終え、準備が整いました。金箔の上から、剥離した盛上げ胡粉を固着するには困難な作業が予想されます。そのため、当館職員と国宝修理装潢師連盟とが共同して修理を実施し、平成二十三年九月ころに完成の予定です。

（神庭信幸）



デジタルマルチスペクトルスキャナーを用いた調査を行う京都大学井手亜里さんと当館職員

ファミリーワークショップ

「貝合せを作って貝合せに挑戦」

日時：10月31日（日）・11月3日（水・祝）13：00〜17：00
会場：平成館小講堂　**定員**：各回10組（応募者多数の場合は抽選）
対象：小学校1年生以上を含むご家族　**参加費**：無料
申込方法：往復はがき・FAX・電子メールのいずれかで
①希望日とプログラム名「○月○日・ファミリー貝」、②参加者全員の氏名（ふりがな）とお子さまの学年、③郵便番号・住所、④電話番号（FAX番号）をご記入の上、下記申込先へお送りください。
申込先：〒110-8712　東京都台東区上野公園13-9　東京国立博物館教育普及室「貝合せワークショップ」係
FAX：03-3822-3010
電子メール：edu@tnm.jp
（件名に「ファミリー貝」とご記入ください）
申込締切：10月15日（金）必着

作った貝合せで貝合せ大会

教育普及事業!!

みどりのライオン
みんなで楽しむ教育スペース
EDUCATION CENTER　教学中心　교육센터

東京芸術大学学生ボランティアによる ギャラリートーク

「仏教における梵音具 ―祈りの音―」

日時：10月2日（土）
本館14室（本館1階エントランス集合）　**解説**：田澤梓

「法隆寺献納宝物　金銅透彫灌頂幡 ―天人の舞う荘厳具―」

日時：10月6日（水）、13日（水）
法隆寺宝物館1室（法隆寺宝物館エントランス集合）　**解説**：内山美代子

「浅井忠のフランス風景 ―芸術家たちを魅了した『夕暮れの村』―」

日時：10月7日（木）、20日（水）、23日（土）
本館18室（本館1階エントランス集合）　**解説**：山塙菜未

「良全筆『如意輪観音図』―水墨で描かれた観音の世界―」

日時：10月9日（土）、14日（木）、19日（火）、24日（日）、28日（木）、30日（土）
本館3室（本館1階エントランス集合）　**解説**：祝迫眞澄

＊いずれも時間は15：30〜15：50

PART 1

知る楽しみ、学ぶ喜び 講座・講演会・解説

講演会

「料紙の加工―日・中・韓の典籍―」（9ページ参照）

日本、中国、韓国の料紙の違いや装飾の様々についてお話します。

日時：10月9日（土）13：30〜15：00
講師：赤尾栄慶（京都国立博物館学芸部副部長）

文化庁外国人芸術家・文化財専門家招聘事業

「トルコにおける日本 ―芸術と日土交流」

日時：11月14日（日）13：30〜15：00
講師：イルベル・オルタイル博士（トプカプ宮殿博物館総館長）

「一歩近づいて見る　聖徳太子絵伝」

詳細な拡大写真を観ながら聖徳太子絵伝の内容、および太子絵伝の展開をお話します。

日時：11月20日（土）13：30〜15：00
講師：朝賀浩（文化庁文化財部美術学芸課）

＊いずれも会場は平成館大講堂、定員：380名（先着順）　聴講無料（ただし、当日の入館料は必要）

列品解説

東京国立博物館の研究員による展示解説です。

「巴形銅器と銅釧」

日時：10月5日（火）14：00〜14：30　平成館考古展示室
講師：井上洋一（企画課長）
弥生時代から古墳時代に作られた謎に満ちた青銅製品について、最新情報も交えながらお話します。

「平安時代の2体の天王像」

日時：10月19日（火）14：00〜14：30　本館11室
講師：丸山士郎（情報管理室長）
道成寺の毘沙門天と浄瑠璃寺の広目天についてお話します。

「白糸威二枚胴具足」

日時：10月26日（火）14：00〜14：30　本館6室
講師：池田宏（上席研究員）
尾張の初代藩主となった徳川義直の甲冑についてお話します。

◉四天王立像 広目天
平安時代・12世紀
京都・浄瑠璃寺蔵

「金家作・達磨図鐔について」

日時：11月9日（火）14：00〜14：30　本館13室
講師：酒井元樹（工芸・考古室研究員）
鐔の世界に革新的な表現をもたらした金家について解説します。

「東京国立博物館所蔵　正倉院の染物」（9ページ参照）

日時：11月16日（火）14：00〜14：30　平成館企画展示室
講師：澤田むつ代（特任研究員）
1200年以上の時を超えて今なお美しい染織の数々をご覧ください。

「葛飾北斎の想像力」

日時：11月30日（火）14：00〜14：30
本館10室
講師：田沢裕賀（絵画・彫刻室長）
浮世絵版画の流れを追いながら、北斎の作品がその想像力によって浮世絵の中で突出したものになっていることを解説します。

○芥子　葛飾北斎筆　江戸時代・19世紀

＊申込みに際していただいた個人情報につきましては、該当事業にのみ使用し、終了後は速やかに破棄します。

PART 2 五感を使った美術体験 ワークショップ

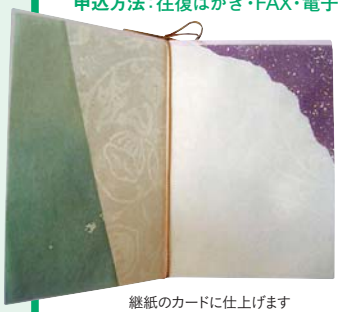
※当落に関らず連絡いたします。実施日の3日前までに受講可否の連絡がない場合は、通信トラブルの可能性もありますので、教育普及室に電話でお問い合わせください。

おとなのためのワークショップ

「唐紙もようのオリジナル料紙と継紙カード作り」

特集陳列「日本・中国・韓国の料紙」にあわせ、関連のワークショップを行います。展示作品を見た後に、唐紙作りを行います。

日時：10月8日（金）17:30〜20:00／9日（土）10:00〜12:30
会場：平成館小講堂　**定員**：各回20名（応募者多数の場合は抽選）
対象：高校生以上　**参加費**：無料（ただし当日の入館料は必要です）
申込方法：往復はがき・FAX・電子メールのいずれかで


継紙のカードに仕上げます

①希望日とプログラム名「10月○日・おとな唐紙」、②参加者全員の氏名（ふりがな）＊2名までの応募が可能です、③郵便番号・住所、④電話番号（FAX番号）をご記入の上、下記申込先へお送りください。
申込先：〒110-8712　東京都台東区上野公園13-9　東京国立博物館教育普及室「唐紙ワークショップ」係
FAX：03-3822-3010
電子メール：edu@tnm.jp（件名に「おとな唐紙」とご記入ください）
締切：10月1日（金）必着

ファミリーワークショップ

「きらきら光る唐紙（からかみ）を作ってみよう」

唐紙って何？　どうしてきらきら光るの？　どんなもようがあるの？　3種類の唐紙を、実際にすってみよう。

日時：10月10日（日）10:00〜12:30
会場：平成館小講堂　**定員**：各回10組（応募者多数の場合は抽選）
対象：小学校1年生以上を含むご家族　**参加費**：無料
申込方法：往復はがき・FAX・電子メールのいずれかで
①希望日とプログラム名「10月10日・ファミリー唐紙」、②参加者全員の氏名（ふりがな）とお子さまの学年、③郵便番号・住所、④電話番号（FAX番号）をご記入の上、下記申込先へお送りください。
申込先：〒110-8712　東京都台東区上野公園13-9　東京国立博物館教育普及室「唐紙ワークショップ」係
FAX：03-3822-3010
電子メール：edu@tnm.jp（件名に「ファミリー唐紙」とご記入ください）
申込締切：10月1日（金）必着

唐紙をすって作ります

おとなのためのワークショップ

「オリジナル貝合せを作ってみよう」

今年も本館の展示室で「貝桶と貝合」が展示されます。博物館でたくさんの展示作品をみて、気に入った作品を参考に、オリジナルの貝合せを作ってみましょう。＊制作の材料は、サインペン・和紙・ラメなどを使います

日時：10月29日（金）17:30〜20:00／10月30日（土）10:00〜12:30
会場：平成館小講堂　**定員**：20人（応募者多数の場合は抽選）
対象：高校生以上　**参加費**：無料
申込方法：往復はがき・FAX・電子メールのいずれかで
①希望日とプログラム名「10月○日おとな貝」、②参加者全員の氏名（ふりがな）＊2名までの応募が可能です、③郵便番号・住所、④電話番号（FAX番号）をご記入の上、下記申込先へお送りください。
申込先：〒110-8712　東京都台東区上野公園13-9　東京国立博物館　教育普及室「貝合せワークショップ」係
FAX：03-3822-3010
電子メール：edu@tnm.jp（件名に「おとな貝」とご記入ください）
申込締切：10月15日（金）必着

松竹蒔絵貝桶・貝合　江戸時代・19世紀

PART 3 あなたの鑑賞をサポート ボランティアによる事業

こどもたちのアートスタジオ

「勾玉作り」

平成館考古展示室内にある勾玉を見学した後に、滑石を加工して勾玉を制作するワークショップです。

日時：11月7日（日）13:30〜15:30　**会場**：平成館小講堂
定員：10名程度（応募者多数の場合は抽選）　**対象**：小学校3年生から高校生　※保護者の方の見学も可能です（ただし当日の入館料が必要）
申込方法：往復はがきの「往信用裏面」に、希望コース名と日程、郵便番号・住所・参加される方のお名前（ふりがな）・学年・電話番号・保護者がご一緒の場合はその人数を、「返信用表面」に、返信先の郵便番号・住所・氏名をご記入の上、下記までお申込ください。
申込先：〒110-8712　東京都台東区上野公園13-9　東京国立博物館ボランティア室　**申込締切**：10月25日（月）必着　※締切の後、参加券をお送りします。

ボランティアによる ガイドツアー

「表慶館アジアギャラリーガイド」

東京国立博物館には日本ばかりでなく東洋諸外国の文化財も収蔵されています。現在東洋館が耐震化工事中のため、それらはおもに表慶館で展示されています。中国、韓国、インド、東南アジア、西アジア、エジプトといったさまざまな地域の作品の中から、生涯学習ボランティアおすすめの作品をご紹介するガイドツアーを期間限定で実施いたします。この機会に、表慶館アジアギャラリーの展示をどうぞお楽しみください。
※解説で取り上げる作品はガイド担当者によって変わります

実施日時：10月1日（金）〜12月24日（金）の金曜日、日曜日　13:30〜14:30
集合場所：表慶館アジアギャラリー　エントランス

饕餮文甗（とうてつもんほう）　中国　商時代・前13〜前11世紀　坂本キク氏寄贈

イニ像浮彫　エジプト サッカーラ出土　古王国時代、第6王朝・前23世紀

INFORMATION

イベント開催のお知らせ

◆10月3日(日)は留学生の日

留学生をご招待！

東京国立博物館では年に1度、留学生の日を定め、日本で学ぶ留学生の皆さんをご招待しています。留学生を対象とした特別企画満載の東博で一日日本文化体験をしてみませんか？

日時：10月3日(日) 9：30〜17：00（入館は閉館の30分前まで）
対象：日本の学校に所属する留学生、ALT（外国語指導助手）及び、その同行者は平常展（本館、表慶館、平成館1階、法隆寺宝物館）の観覧が無料となります。入館の際に学生証をご提示ください。

イベントスケジュール

10：30〜10：50　博物館紹介「東京国立博物館へようこそ」本館1階20室
　先着50名、東博の紹介や本日の見どころについてお話します。
11：30〜12：15　茶道お点前の実演1　庭園内応挙館
　先着35名、11：00から庭園入口で整理券を配布します。
12：30〜13：15　茶道お点前の実演2　庭園内応挙館
　先着35名、12：00から庭園入口で整理券を配布します。
13：30〜13：50　博物館紹介「東京国立博物館へようこそ」本館1階20室
　先着50名、東博の紹介や本日の見どころについてお話します。
14：30〜15：15　茶道お点前の実演3　庭園内応挙館
　先着35名、14：00から庭園入口で整理券を配布します。
15：00〜15：20　浮世絵ガイド
　時間になりましたら本館1階エントランスより出発いたします。
15：30〜16：15　茶道お点前の実演4　庭園内応挙館
　先着35名、15：00から庭園入口で整理券を配布します。

11：00〜12：30、14：00〜15：30では、本館2階「日本美術の流れ」の各所に生涯学習ボランティアが待機して、英語で作品をご紹介します。どうぞお気軽にお声をおかけください。（当日、解説場所には看板を設置いたします）

◆秋の庭園開放

10月30日（土）〜12月12日(日)、本館北側の庭園が開放されます。
楓や銀杏の華やかな紅葉をお楽しみください。展示室の中にも紅葉や秋草など秋をテーマにした作品がたくさん紹介されています。東博ならでは、名品のなかの紅葉狩りもあわせてお楽しみください。

◆国宝・重要文化財の高精細画像サイト「e国宝」のご案内

東京、京都、奈良、九州の4つの国立博物館が所蔵する国宝・重要文化財の高精細な画像を、日英仏中韓の5カ国語の解説とともにご覧いただけるWebサイト「e国宝」が4月にリニューアルされました。展示で実物に触れていただく機会は限られていますが、こちらでは高品質な画像をいつでも、また世界中どこからでも、じっくりと見ていただけます。画像は自由に拡大でき、また一部の巻物などでは全ての場面を繋げた状態でご覧いただくことができますので、展示での鑑賞とはまた違った発見があるかもしれません。

e国宝URL　http://www.emuseum.jp/

◆本館リニューアルのお知らせ

平成23年正月、本館日本ギャラリーの展示が変わります。
国際化に対応して、各展示室の概説パネルを、日本語・英語の2言語から日本語・英語・中国語・韓国語の4言語に改めます。日本を訪れる外国人の皆様に日本美術の魅力をより深く知っていただけるよう努めます。

1階の12室・13室では展示室の配置が変わります。
12室は、漆工の展示室になります。展示ケースや照明なども一新して、蒔絵、螺鈿などをさらに美しく演出します。

13室は、金工、刀剣、陶磁の展示室になります。
金工では、自在や鏡など、これまでの展示では登場の機会が少なかった作品も展示します。刀剣では、鑑賞の手掛かりとなる解説を増やします。陶磁では、展示空間を増やし、日本の陶磁史の流れを幅広く展示します。

これにともない、本館の一部を閉室します。詳細は次項をご覧ください。

◆本館閉室のお知らせ

11月15日(月)は開館日ですが、本館2階「日本美術の流れ」、特別1室は、展示替のため一時閉室いたします。
11月29日(月)〜2011年1月1日(土)は、本館1階11〜16室を、12月13日(月)〜1月1日(土)は、本館1階17〜19室を、展示環境改善のため一時閉室いたします。

◆2011年 東博カレンダー プレゼント

1年を通して美しい美術作品をお楽しみいただける東京国立博物館のオリジナルカレンダーを、抽選で10名様にプレゼントします。締切は11月18日(木)必着。

＊プレゼントの応募方法

はがきに住所、氏名(ふりがな)、性別、年齢、職業、ならびにこの号で一番面白かった企画をご記入のうえ、下記までお送りください。発表は発送をもって替えさせていただきます。

〒110-8712　台東区上野公園13-9　東京国立博物館　広報室
「ニュース10・11月号」プレゼント係

◆東京国立博物館賛助会員募集のご案内

東京国立博物館では賛助会員制度を設け、当館の活動を幅広くご支援いただいております。賛助会員よりいただいた会費は、文化財の購入・修理、調査研究・平常展・施設整備等の充実にあてております。どうか賛助会の趣旨にご理解ご賛同いただき、ご入会くださいますようお願い申し上げます。

入会日より1年（入会月の翌年同月末日まで）有効。賛助会員には、特別会員と維持会員との2種類があります。

年会費
　特別会員　100万円以上
　維持会員　法人　20万円
　　個人　5万円

主な特典
　●特別展の内覧会にご招待
　●東京国立博物館ニュースの送付

＊賛助会員のお申し込みは随時受け付けています。
＊お問い合わせ
　東京国立博物館総務部　賛助会担当
　TEL 03-3822-1111（代）

東京国立博物館賛助会員　2010年8月18日現在

特別会員

日本電設工業株式会社 様
株式会社 コア 様
株式会社 精養軒 様
大日本印刷株式会社 様
毎日新聞社 様
株式会社 大林組東京本社 様
朝日新聞社 様
株式会社 ホテルオークラエンタープライズ 様
株式会社 ミロク情報サービス 様
読売新聞社 様
三菱商事株式会社 様
凸版印刷株式会社 様
ブルガリ ジャパン株式会社 様
財団法人 東芝国際交流財団 様
日本写真印刷株式会社 様
日本ロレックス株式会社 様

維持会員 団体

東京電力株式会社 様
TBS 様
株式会社 三冷社 様
株式会社 東京美術 様
株式会社 鶴屋吉信 様
株式会社 安井建築設計事務所 様
株式会社 ナガホリ 様
松本建設株式会社 様
株式会社 スタイルカフェ・ドット・ネット 様
株式会社 古美術藪本 様
謙慎書道会 様
社団法人 全国学校栄養士協議会 様
近代書道研究所 様
日本畜産興業株式会社 様
株式会社 東京書芸館 様
インフォコム株式会社 様
学校法人 大勝院学園 様
有限会社 システム設計 様
株式会社 小西美術工藝社 様
公和図書株式会社 様
有限会社 ギャラリー竹柳堂 様
株式会社 育伸社 様

維持会員

木村 則子 様
早乙女 節子 様
宇津野 和俊 様
伊藤 信彦 様
井上 萬里子 様
籔内 匡人 様
服部 禮次郎 様
岩沢 重美 様
高田 朝子 様
齋藤 京子 様
齋藤 邦裕 様
和田 喜美子 様
佐々木 芳絵 様
藤原 紀男 様
中川 俊光 様
関谷 徳衛 様
高橋 守 様
小澤 桂一 様
上久保 のり子 様
櫛田 良豊 様
長谷川 英樹 様
池田 孝一 様
木村 剛 様
観世 あすか 様
星埜 由尚 様
久保 順子 様
渡辺 章 様
稲垣 哲行 様
帖佐 誠 様
飯岡 雄一 様
峯村 協成 様
牧 美也子 様
髙瀬 正樹 様
坂井 俊彦 様
寺浦 信之 様
高木 美華子 様
古屋 光夫 様
根田 穂美子 様
松本 澄子 様
鷲塚 泰光 様
是常 博 様
上野 孝一 様
北山 喜立 様
山田 泰子 様
田村 久雄 様
髙橋 徹 様
栄田 陸子 様
絹村 安代 様
髙橋 良守 様
岡田 博子 様
臼井 生三 様
津久井 秀郎 様
川澄 祐勝 様
神通 豊 様
永久 幸範 様
五十嵐 良和 様
石川 公子 様
池田 慶子 様
青山 千代 様
永田 実香 様
西岡 康宏 様
友景 紀子 様
東野 治之 様
辻 泰二 様
高木 聖鶴 様
竹下 佳宏 様
松原 聡 様
野澤 智子 様
吉田 幸弘 様
野﨑 弘 様
坂田 浩一 様
池谷 正夫 様
脇 素一郎 様
秦 芳彦 様
杉原 健 様
木谷 騏巳郎 様
髙梨 兵左衛門 様
渡久地 ツル子 様
汐崎 浩正 様
堤 勝代 様
平井 千恵子 様
髙谷 光宏 様
青山 道夫 様
髙橋 靜雄 様
田中 千秋 様
小西 晫也 様
澁谷 洋志 様
清川 勉 様
山下 照夫 様
仙石 哲朗 様
中井 伸行 様
髙見 康雄 様
田中 望 様
三井 速雄 様
坂詰 貴司 様
吉田 靖 様
松本 雅彦 様
明珍 素也 様
伊藤 喜雄 様
井上 雄吉 様
大森 雅子 様
鈴木 宗鶴 様
折越 卓哉 様
渡辺 恭昌 様
細川 要子 様
錦織 伸一 様
鈴木 幸一 様
秋元 文子 様
土師 詔三 様
上塚 建次 様
鏡 賢志 様
山田 輝明 様
高久 真佐子 様
平山 利恵 様
井出 雪絵 様
佐藤 禎一 様
岡本 博司 様
岡本 恭子 様
谷川 紀彦 様
山口 隆司 様
原 一之 様
会田 健一 様
桐畑 政義 様
相良 多恵子 様
熊谷 勝昌 様
眞中 富士男 様
鈴木 徹 様
今里 美幸 様
櫻井 恵 様
加藤孝明 様
伊佐 健二 様
福井 一夫 様
軽部 由香 様
阿部 明美 様

（ほか43名2社、順不同）

東京国立博物館友の会&パスポート

友の会 年会費 1万円 発行日から1年間有効

特典 東京・京都・奈良・九州国立博物館4館の平常展は何度でもご覧いただけます。特別展に関しては、観覧券を12枚配布。そのほか、本誌の定期郵送などさまざまな特典があります

パスポート 一般 4,000円 学生 2,500円
発行日から1年間有効

特典 東京・京都・奈良・九州国立博物館4館の平常展は何度でも、お好きな6つの特別展を1回ずつ計6回までご覧いただけます

＊建物の改修等のため、京都国立博物館・奈良国立博物館の平常展示館、東京国立博物館東洋館など一部展示館を閉館しています。

◆お申し込みは当館窓口、郵便振替または当館ホームページで

〈郵便振替でのお申し込み〉

＊振替用紙には郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号・職業・年齢・性別・メールアドレスを楷書でご記入ください
＊振替用紙の半券が領収書になります。会員証、パスポートが届くまで保管しておいてください
＊振替手数料はお客様の負担となります
＊ご入金確認日より会員証、パスポートがお手元に届くまで2週間程かかります

友の会
加入者名(振替先)東京国立博物館友の会
口座番号00160-6-406616

パスポート
加入者名(振替先)東京国立博物館パスポート
口座番号00140-1-668060
＊振替用紙には申込区分(一般か学生)、学生の場合は、生徒手帳か学生証のコピーを郵送またはFAXでお送りください

◆お問合せ
TEL 03-3822-1111(代) 友の会・パスポート担当
FAX 03-3821-9680

東京国立博物館ニュース定期郵送のご案内

本誌の定期購読をご希望の方は、年間(6冊分)1,000円の送料・事務費のご負担でご自宅にお届けします

◆お申し込みは郵便振替で
加入者名(振替先)東京国立博物館ニュース
口座番号 00100-2-388101
＊振替用紙には郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号を楷書でご記入ください
＊振替用紙の半券が送料の領収書になります。1年間保管しておいてください
＊振替手数料はお客様のご負担となります
＊次号より送付ご希望の場合、締切は2010年11月10日です

東京国立博物館メールマガジンのご案内

特別展・各種催し・展示替・ウェブ更新などの情報をいち早くお届けします ＊ご登録はhttp://www.tnm.jp/から

東京国立博物館利用案内

開館時間 9:30〜17:00
2010年12月までの特別展開催期間中の金曜日は20:00まで、2010年4月〜9月の土日祝休日、および10月〜12月の特別展開催期間中の土日祝休日は18:00まで開館(入館は閉館の30分前まで)。

休館日 原則として月曜日(祝日・休日にあたる場合は開館、翌火曜日休館)、年末年始(12月27日〈月〉〜2011年1月1日〈土〉)。2010年11月8日(月)、11月15日(月)は開館

平常展観覧料金
一般600(500)円、大学生400(300)円
＊( )内は20名以上の団体料金
＊障害者とその介護者1名は無料です。入館の際に障害者手帳などをご提示ください
＊満70歳以上、高校生以下および18歳未満の方の平常展観覧は無料です。入館の際に年齢のわかるもの(生徒手帳、健康保険証、運転免許証など)をご提示ください

＊お申し込みに際してご提供いただいた個人情報は、当該の目的にのみ使用させていただきます。当館は個人情報に関する法令を遵守し、適正な管理・利用と保障に万全を尽くします

TOPICS

◆海外展「高麗仏画大展」〜東アジアにおける仏教絵画の意味を再考〜

10月11日(月)〜11月21日(日)
韓国・国立中央博物館

韓国の国立中央博物館が、現在の龍山(ヨンサン)に新館を建てたのは二〇〇五年のことでした。開館五周年にあたる本年はこれを記念して、「高麗仏画大展」を開催します。この特別展は、日本を中心として世界各地に散在する高麗時代(九一八〜一三九二)の仏画を精選して公開しようとするもので、仏教を国教と定めた高麗時代に描かれた優品の数々を紹介するとともに、中国の南宋・元時代や、日本の鎌倉時代の仏画も比較展示します。

阿弥陀三尊図 高麗時代・13〜14世紀
高麗時代には、浄土信仰が宗派を超えて流行しました

開館五周年記念展ならではの一大企画をお見逃しなく。

(富田 淳)

◆TNM&TOPPANミュージアムシアター上演スケジュール

10月1日(金)〜12月26日(日)の金・土・日・祝日

	上演開始時間	10時	11時	12時	14時	15時	16時
国宝 聖徳太子絵伝	10/1(金)〜11/21(日)	■		■		■	
国宝 不空羂索観音立像 宝冠	全期間		■		■		■
国宝 金銅灌頂幡	11/23(火・祝)〜12/26(日)	■		■		■	

※各回30名。当日予約制。上演開始の10分前までに本館1階エントランスにて受付
※12月23日(木・祝)は、ミュージアムシアターは休演します

【作品紹介】

VR作品「東大寺法華堂 国宝 不空羂索観音立像 宝冠」

二万数千個の宝玉が使われている奈良時代の名品をVR(バーチャルリアリティ)で再現し、通常は近寄って見られない高さ88センチの宝冠をシアターの大画面でご覧いただきます。

VR作品「国宝 聖徳太子絵伝」

国宝「聖徳太子絵伝」(展示期間:10月26日〜11月21日)を、元来収蔵されていた奈良・法隆寺の東院伽藍の絵殿にVRで戻し、当時の姿を鑑賞します。

VR作品「法隆寺献納宝物 国宝 金銅灌頂幡—飛鳥の天人—」

国宝「灌頂幡」の制作当時の光り輝く姿を再現し、日本金工史上最高の傑作を細部にわたって様々な角度から解説します。

◆MUSEUM627号(2010年8月15日発行)の掲載論文

①「近代染織史研究における〈辻が花〉の受容について」小山弓弦葉(当館特別展室主任研究員)
②「《資料紹介》東京国立博物館所蔵菊亭家旧蔵書について」福原紗綾香
③「《資料紹介》正木直彦、チャールズ・ラング・フリアー往復書簡——馬遠筆〈江山勝覧〉の写真複製本をめぐって——」大西純子(東京芸術大学美術学部教育資料編纂室非常勤講師)

◆国立博物館の展示案内

〈京都国立博物館〉
特別展覧会 文化財保護法60年記念事業「高僧と袈裟 —ころもを伝え こころを繋ぐ—」
10月9日(土)〜11月23日(火・祝)

〈奈良国立博物館〉
特別展「第62回正倉院展」10月23日(土)〜11月11日(木)

〈九州国立博物館〉
特別展「誕生!中国文明」10月5日(火)〜11月28日(日)

[16ページのカレンダー内 ＊1〜＊9]
＊1 事前申込制、詳細は前号12ページまたは当館ホームページをご覧ください
＊2 事前申込制、詳細は本誌13ページをご覧ください
＊3 詳細は本誌12ページをご覧ください
＊4 事前申込制、詳細は本誌13ページをご覧ください
＊5 10/16、11/20は手話通訳付きです
＊6 事前申込制、詳細は本誌13ページをご覧ください
＊7 事前申込制、詳細は本誌12ページをご覧ください
＊8 詳細は本誌12ページをご覧ください
＊9 詳細は本誌12ページをご覧ください

表紙:◉**賢愚経断簡(大聖武)**(部分) 奈良時代・8世紀 (本紙5ページ参照)
○**雨夜の宮詣**(部分) 鈴木春信筆 **農業満作出来秋之図**(部分) 勝川春潮筆 ◎**青楼藝者撰・いつ花**(部分) 鳥文斎栄之筆 3作品とも江戸時代・18世紀 (本紙7ページ参照)

東京国立博物館2010年10月・11月の展示・催し物

2010年10月

1	FRI	13:30 15:00
2	SAT	11:00 13:30 15:00 「梵音具」15:30 本館14室 「高校生のための連続講座」10:00 平成館小講堂*1
3	SUN	13:30 14:00 14:30 **留学生の日**
4	MON	休館日
5	TUE	15:00 **列品解説**「巴形銅器と銅釧」14:00 平成館考古展示室
6	WED	14:00 「金銅透彫灌頂幡」15:30 法隆寺宝物館第1室
7	THU	14:00 「浅井忠のフランス風景」15:30 本館18室
8	FRI	夜間開館(20:00まで) 13:30 14:30 おとなのためのワークショップ「唐紙もようのオリジナル料紙と継紙カード作り」17:30 平成館小講堂*2 **「東大寺大仏―天平の至宝―」**
9	SAT	時間延長(18:00まで) 14:00 14:30 「如意輪観音図」15:30 本館3室 **月例講演会**「料紙の加工―日・中・韓の典籍―」13:30 平成館大講堂*3 おとなのためのワークショップ「唐紙もようのオリジナル料紙と継紙カード作り」10:00 平成館小講堂*2
10	SUN	時間延長(18:00まで) 13:00 13:30 14:00 ファミリーワークショップ「きらきら光る唐紙を作ってみよう」10:00 平成館小講堂*4
11	MON	時間延長(18:00まで)
12	TUE	休館日
13	WED	14:00 14:30 「金銅透彫灌頂幡」15:30 法隆寺宝物館第1室
14	THU	14:00 14:00 14:30 「如意輪観音図」15:30 本館3室
15	FRI	夜間開館(20:00まで) 13:30 15:00
16	SAT	時間延長(18:00まで) 11:00*5 13:30 14:00 15:00
17	SUN	時間延長(18:00まで) 12:30,14:00 13:30 14:00
18	MON	休館日
19	TUE	15:00 「如意輪観音図」15:30 本館3室 **列品解説**「平安時代の2体の天王像」14:00 本館11室
20	WED	「浅井忠のフランス風景」15:30 本館18室
21	THU	14:00 14:30
22	FRI	夜間開館(20:00まで) 13:30 14:30
23	SAT	時間延長(18:00まで) 14:00 14:30 「浅井忠のフランス風景」15:30 本館18室
24	SUN	時間延長(18:00まで) 11:00 13:00 13:30 14:00 「如意輪観音図」15:30 本館3室
25	MON	休館日
26	TUE	**列品解説**「白糸威二枚胴具足」14:00 本館6室
27	WED	14:00 14:30
28	THU	14:00 14:30 「如意輪観音図」15:30 本館3室
29	FRI	夜間開館(20:00まで) 13:30 15:00 おとなのためのワークショップ「オリジナル貝合せを作ってみよう」17:30 平成館小講堂*6
30	SAT	時間延長(18:00まで) 11:00 14:00 15:00 「如意輪観音図」15:30 本館3室 おとなのためのワークショップ「オリジナル貝合せを作ってみよう」10:00 平成館小講堂*6 **秋の庭園開放**
31	SUN	時間延長(18:00まで) 13:30 14:00 ファミリーワークショップ「貝合せを作って貝合せに挑戦」13:00 平成館小講堂*7

2010年11月

1	MON	休館日
2	TUE	15:00
3	WED	時間延長(18:00まで) 14:00 ファミリーワークショップ「貝合せを作って貝合せに挑戦」13:00 平成館小講堂*7
4	THU	14:00
5	FRI	夜間開館(20:00まで) 13:30 15:00
6	SAT	時間延長(18:00まで) 11:00 13:30 14:00 14:30 15:00
7	SUN	時間延長(18:00まで) 13:30 13:30 14:00 14:30
8	MON	
9	TUE	**列品解説**「金家作・達磨図鐔について」14:00 本館13室
10	WED	14:00 14:30
11	THU	14:00 14:00 14:30
12	FRI	夜間開館(20:00まで) 13:30 14:30
13	SAT	時間延長(18:00まで) 14:00
14	SUN	時間延長(18:00まで) 13:00 13:30 14:00 文化庁外国人芸術家・文化財専門家招聘事業「トルコにおける日本―芸術と日土交流」13:30 平成館大講堂*8
15	MON	
16	TUE	15:00 **列品解説**「東京国立博物館所蔵 正倉院の染物」14:00 平成館企画展示室
17	WED	
18	THU	14:00 14:30
19	FRI	夜間開館(20:00まで) 13:30 15:00
20	SAT	時間延長(18:00まで) 11:00*5 13:30 14:00 14:30 15:00 **月例講演会**「一歩近づいて見る 聖徳太子絵伝」13:30 平成館大講堂*9
21	SUN	時間延長(18:00まで) 12:30,14:00 13:30
22	MON	休館日
23	TUE	時間延長(18:00まで)
24	WED	14:00 14:30
25	THU	14:00 14:30
26	FRI	夜間開館(20:00まで) 13:30 14:30
27	SAT	時間延長(18:00まで) 14:00
28	SUN	時間延長(18:00まで) 11:00 13:00 13:30 14:00 14:00
29	MON	休館日
30	TUE	15:00 **列品解説**「葛飾北斎の想像力」14:00 本館10室

12/12まで 12/12まで

=ボランティアによる本館ハイライトツアー、集合場所：本館1階エントランス
=ボランティアによる浮世絵展示ガイド、集合場所：本館1階エントランス
=ボランティアによる陶磁エリアガイド、集合場所：本館1階エントランス
=ボランティアによる彫刻ガイド 、集合場所：本館1階エントランス
=ボランティアによる樹木ツアー、集合場所：本館1階エントランス
=ボランティアによる考古展示室ガイド、集合場所：平成館考古展示室入口
=ボランティアによる表慶館アジアギャラリーガイド、集合場所：表慶館1階エントランス
=ボランティアによる法隆寺宝物館ガイド、集合場所：法隆寺宝物館1階エントランス
=ボランティアによる茶会、集合場所：本館1階エントランス（一般及び大学生は参加費500円、先着30名、開始30分前に集合場所で整理券配布）
=ボランティアによる庭園茶室ツアー、集合場所：本館1階エントランス（先着20名、開始30分前に集合場所で整理券配布）
=ボランティアによる英語ガイド（本館ハイライト）、集合場所：本館1階エントランス
=ボランティアによるたてもの散歩ツアー、集合場所：本館1階エントランス
=ボランティアによるこどもたちのアートスタジオ（勾玉作りコース、事前予約制〈抽選10名〉、詳細は本誌13ページをご覧ください）
=芸大ボランティアによるギャラリートーク、詳細は本誌13ページをご覧ください
=黒田記念館開館日、木曜・土曜13:00～16:00
=ミュージアムシアター上演（詳細は本誌15ページをご覧ください）

*1～*9は、本誌15ページをご参照ください。
*上記の予定は予告なく変更になることがあります。当日の予定はインフォメーションカウンターでご確認ください。
*屋外で実施するツアー・ガイドは雨天の場合中止することがあります。

東京国立博物館ニュース 第703号 平成22年10月1日発行（隔月1回 偶数月発行） 編集／東京国立博物館 広報室 ©東京国立博物館
発行／東京国立博物館 〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9 TEL 03-3822-1111（代表） *ホームページ〈URL〉http://www.tnm.jp/ 独立行政法人国立文化財機構ホームページ〈URL〉http://www.nich.go.jp 制作／美術出版社［デザインセンター］